

interview

W  
さん製造グループ  
線ばね1班 係長 生産チーム

工業高校を卒業後、名興発條株式会社の一員として社会に飛び出し、入社以来、製造グループで地道な努力と確かな実績を積み重ねてきた。押しばねラインでの班長昇格を皮切りに、より一層スキルを磨いて品質・安全・納期を高いレベルで維持。その手腕は社内でも一目置かれ、将来的に製造グループを牽引するリーダーとして期待されている。胸に宿る「改善」への強い思いと、それに裏づけられた取り組みに迫った。

#### 品質改善へ向けた挑戦のはじまり

今日までを振り返って特に印象深いのは、2015年頃から携わるようになったロックスプリングラインで

の経験だ。それまでにない高難度の業務に直面し、当初は何もかもが手探りの状態。なかでも深刻だったのは、不良率の高さだった。当時のロックスプリングラインでは不良品が多く出ていて、不良率は高いときで22～23%に達していたのだ。

改善の第一歩として着手したのは、ばねの成形機における調整機の見直しだった。先輩社員から助言を受けたり、機械メーカーを訪れて検証を行ったりと、さまざまな試行錯誤を重ねる日々が続く。最終的に、それまで感覚に頼っていた作業に基準を定めて数値化し、業務の標準化を実現。ここに至るまでには、実に4～5年の歳月が必要だったという。

「努力の甲斐あって、不良率は2%以下にまで改善されました。不良品の対応にかかる手間が削減さ

れたため、従業員一人ひとりにかかる負担も大きく軽減できたと思います」。

また、2つに分かれていた選別工程を1つに統合するなど、作業効率を向上させるための取り組みを積極的に進めてきた。

#### 良い仕事は、美しい現場から生まれる

改善への強い意識は、入社後に受けたさまざまな教育のなかで育まれた。特に重視しているのは、「2Sの徹底」。整理整頓された職場環境は異常の早期発見につながり、改善点を見つける足がかりにもなる。現場の清潔さや秩序が、品質向上の土台になるのだ。現在のロックスプリングラインでは、そうした意識が現場全体に浸透し、美しい職場環境が保たれているという。今後はこの文化を押しばねラインにも広げていきたいと考えている。

また名興発條には、自分たちの意見を反映させながらいろいろな活動ができる、風通しの良さがある。コミュニケーションの取りやすい和気あいあいとした雰囲気の中で、やりがいを感じながら業務に取り組む毎日だ。

#### 「負けず嫌い」を強みとし、挑戦を続ける

2025年3月には、押しばねラインとロックスプリングラインの組織統合に伴い、係長として新たな一歩を踏み出した。日々取り組んできた改善活動や、整理整頓の2S活動が評価された結果の昇進だと思っている。

「これまでの努力が認められたようで、素直に嬉しいと感じました。今後も生来の負けず嫌いな性格を

活かし、『どこにも負けない職場』を作りたいと考えています」。

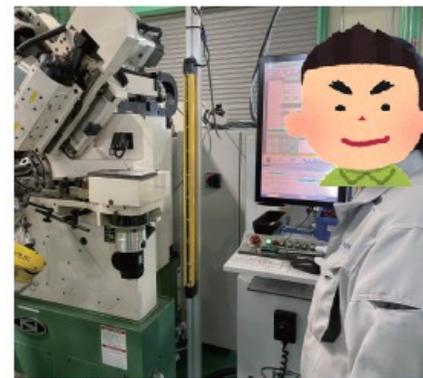
役職が変わっても現状に甘んじることなく、次の改善点を探す姿勢は決して崩れない。

#### 改善文化を継承し、仲間たちと次の舞台へ

今後は、これまでの取り組みを職場全体にさらに広く浸透させるとともに、後進の育成にも尽力していく考えだ。次世代の名興発條を担う後輩たちに特に意識してほしいのは、「迷ったら必ず質問する」という姿勢。基本的な作業手順に忠実であることに加え、周囲と積極的にコミュニケーションを取りながら、知識と技術を身につけてほしいと願っている。

まずは全体の流れを把握したうえで、細かい部分にも対応できるようにスキルを高め、一人ひとりが戦力として活躍する日を心待ちにしているという。

現場の最前線に立ち、周囲と連携しながらより良い職場環境の実現に尽力する。その地道な努力の積み重ねは、製造グループだけでなく、会社全体を発展させる大きな力になるだろう。



▲作業中の様子